



# だより

— つながれ ひろがれ —

第162号  
特定非営利活動法人  
環境パートナーシップちば

TEL : 090-8116-4633  
E-mail : info@kanpachiba.com  
<https://kanpachiba.com/>

## 若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト受賞者活動報告会

日時：2025年3月8日（土）13：40～16：45  
会場：千葉県教育会館 203 会議室・オンライン  
主催：千葉県・千葉県環境学習等推進連絡会議  
受託団体：NPO 法人環境パートナーシップちば  
プログラム 1部 受賞団体による活動報告  
2部 受賞団体と参加者との意見交換会



1部では、令和6年度「若者が主役の環境保全活動応援事業」のアイデアコンテスト（10月20日エコメッセちば2024会場）で受賞した3団体と令和5年度受賞3団体の活動を報告していただきました。報告団体は下記になります。

### 【令和6年度受賞団体】

#### 第1位 千葉県立大網高等学校

農芸化学プロジェクトチーム

テーマ「食品加工廃棄物と鉄くずで作物パワー活性化」

※学校で発生した食品加工廃棄物を農業に活用する。事業の理解・協力者を広げる。

#### 第2位 carutena（カルテナ）

テーマ「着なくなった洋服に、第二の人生を」  
※木更津市内でファッションショーを予定しており、準備を進めている。

#### 第3位 東邦大学ネイチャープロジェクト

テーマ「都市住民による持続可能な里山保全活動の提案」

※印西市・白井市で里山整備、あおぞら大学を開催し、子どもたち、地域等とつなぐ。

### 【令和5年度受賞団体】

#### 第1位 成田日本菫復活チーム

（千葉県立成田西陵高等学校園芸科作物専攻）

テーマ「蘇れ！耕作放棄地～日本菫に託す私たちの想い～」

※日本菫(植物染料)を耕作放棄地で栽培し、成田日本染めとして普及等活動している。

#### 第2位 学生団体グリーンベース

テーマ「里山活用コミュニティ『グリーンベース』」

※市原市で若者を対象とした里山整備等の活動体験を提供している。地域とつながる。

#### 第3位 千葉大 NESO

テーマ「地域の特色を生かした自然体験型学習プログラムの画策」

※小学生から高校生までを対象とした2泊3日の合宿による自由研究プログラムを提供（いすみ市、南房総市で実施済み）。

2部の意見交換会の前に、三洋商事株式会社 地球環境・未来創造部 石田公希氏から、若者に向けて自分で歩まれた経緯をお話いただきました。野球部員として活動していたころ、テレビで見た環境のことが気になり、大学は環境系で学び、「地球にありがとうを伝える企業」の三洋商事に入社。入社3年目で地球環境・未来創造部が設置され、現在そこで活躍されています。社会のため自分の好きな環境を守りたい気持ちを持つことも大切等、印象深いものが多くありました。

2部の意見交換会では、参加者からも多くの質問がありました。受賞団体からの素直な若者らしい回答など、会場内に若者への支援が広がる空気を感じました。

また、6年度受賞団体に5年度受賞団体の活動の見本が見えたのも成果が大きいと思いました。コンテストの審査員からもアドバイスや応援メッセージなどいただき閉会しました。本事業が広がり、根付いていくためにも多くのご支援・ご協力を今後もよろしくお願いいたします。

（文責：桑波田 和子）

## SDGs 学生フォーラム in ちばの企画について

2025年3月9日に浦安市のまちづくり活動プラザにてボランティアに携わる学生が集まり、SDGs 学生フォーラム in ちばが開催されました。本フォーラムは昨年も開催され、その際は午前中のみ開催されました。千葉県内外を問わず多くの皆さまにご参加いただき、好評をいただきました。しかし、参加者の皆さまの活動内容を紹介することはできませんでしたが、午前中みの開催であったことから、学生どうしの交流の時間が少なかったことが私の中で心残りでありました。本年のフォーラムは1日を通して交流の時間を多くして、もう一度開催したいという強い思いから企画が始まりました。

企画にあたっては昨年よりも多くの学生に携わっていただきました。本年はフォーラムのテーマを決めることから始まり、ミーティングを多く実施することで丁寧に準備を進めていくことができたと感じております。午前は活動紹介、午後は交流というおおまかなプログラムだけ決まっておりましたが、その内容は漠然としていた中で、多くの

りこボラ！副代表 中村駿太

学生から様々な意見をいただき、SDGsを活かして非常に素晴らしいフォーラムが開催できたと感じております。

しかしながら、本年は広報に苦勞し、当日ご参加いただいた団体様は企画メンバーとつながりのある団体様がほとんどとなりました。私は本フォーラムの企画に携わり、学生団体どうしのつながりを作ることの重要性を強く感じております。来年はぜひ広報にももっと力を入れてますます多くの皆さまにご参加いただきたいと思います。最後になりましたが、企画に携わっていただいた皆さま、当日ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

ごさいま  
した。



## SDGs 学生フォーラム 当日報告

学生団体おりがみ 中村拓雅

今年のSDGs 学生フォーラムは「つながりから描く私たちの未来図」というコンセプトのもと、これから未来を担う立場として今後はどんなアクションを起こせるかを考える場として、交流と企画を考えるワークショップを通して学生が考えていく内容で開催しました。また、参加対象を環境系に特化させずSDGsという観点から分野を越境させることで、より多角的に問題を捉えられるようにしようと、他分野間の交流を強く反映した内容でした。

当日は学生21名、市民団体2名、環境パートナーシップ6名の計29名が参加しました。

内容は、午前中に各団体紹介、午後に企画考案とその案から海ごみを活用したアート作成を行いました。

午前の団体紹介は、7団体から環境・国際・地域創生・福祉などの複数ジャンルからの紹介がありました。活動内容や目的を共有したことで新たな考えをもつ、刺激のある機会でした。そして、午後は企画を考えるワークとして、ウェディング

ケーキモデルによる分類をもとに各々が関心のあるテーマを選んで企画を考えました。中には、自分の活動とは直接的な関係のないテーマに取り組んだ学生もおり、目的の一つである「多角的な視点から問題を捉えること」の達成に繋がっていたと考えられます。そして、アート作成では、海ごみの現状を伝えつつ、考えた企画をアートにして個性豊かに表現されていました。

最後に感想になりますが、私自身2年目であり、去年よりも交流や次へのアクションを考えられた内容であったと感じています。来年は更に多くの分野から人を集めたり、中高生と一緒にアクションプランを考えたりしても未来に繋がると思うので、この1年を有意義に使って来年を迎えたいと思います。





## 「リサイクルを学ぼう！ 親子環境教室」の開催

環境保全・とんがらし座 環境カウンセラー 小堀 功

### 【はじめに】

今回は、茂原市役所の環境保全課より環境パートナーシップちばを經由して依頼された案件です。現地の東郷福祉センターの方々の協力を経て、親子環境教室を開催しました。

- ・日時：2025年2月1日（土）9：00～12：00
- ・場所：茂原市東郷福祉センター2階（料理教室）
- ・対象：茂原市在中の親子（子供15名 大人6名）
- ・講師：小堀 功

### 【講座】

親子の組み合わせでの参加のため今回は、「せっけんの材料の種類」とは何か？主に植物のオリーブ、菜の花、大豆、米ぬか等から作られた物を「せっけんの材料」と定義し、授業を行いました。

使用済みの廃食油500mlを海に流してしまった場合、その海を浄化するのに、お風呂560杯分のきれいな水が必要（浴槽300L×560杯=168,000L）となる。

ここで私たちにできることは何か？「きれいな水ときれいな地球を大切にすること」を考えて生活・行動をしましょう。

### 【コネコネマイせっけんの工作教室】

子供達にはせっけんを二個配布。ひとつは自由にコネコネして形作り、型（♡、♠、円、動物）を用いて完成。もう一つは、食紅、香料（オイル）を使い、粘土工作の感覚でコネコネしてマイせっけんを作りました。親御さんには、一つ配布して子供達と同じように実体験をしてもらいました。

### 【最後のまとめ】

親子で学びながら笑顔・笑顔で楽しく工作をしている姿は、私自身の達成感を感じることができました。場所的に遠方ではありましたが、東郷福祉センターの方々のあたたかい支援・心遣いにより、円滑に無事終えることができました。この件につきまして茂原市役所のご担当の方にも「楽しい出来事」であったことを併せて、ご報告させて頂きました。



## 水草バスターズ in 平塚 参加報告

NPO 法人しろい環境塾が主催するナガエツルノゲイトウ駆除が2月15日と3月1日の2回開催され、2月15日（土）に参加しました。

ナガエツルノゲイトウは特定外来生物に指定され、千葉県内では印旛沼流域をはじめ、手賀沼、行徳、君津市内の河川などでも生息しているようです。水陸どちらにも生えるので駆除が厄介です。

今回のしろい環境塾の駆除場所は、田んぼでした。田の土を掘り起こし、ナガエツルノゲイトウの根を取り除く作業です。

理事長の渡辺氏からは、今回の駆除の目的は、夏に爆発的な繁殖を抑えるために冬に駆除する。今回駆除する田の隣で米づくりをしているが、畔から水田側にも広がるのを防ぐ。また、排水路などを通して、印旛沼へと流れるので、川上からの流入を止める等が話されました。

参加者は、白井市長はじめ、白井市役所関係部署、県柏土木、農水省関東農政局、県立白井高校の生徒、市内からの親子、中学生、NPO、しろい環境塾など約80名でした。作業時間は、9時から11

時の2時間。掘り起こされた土の塊をシャベルや熊手などを使い、根を取り出し土を除き袋に入れます。地上部は枯れていても、土の中の根はピンク色になり、新芽の準備ができています。切れ端から発芽していくことなど注意が必要で、作業はなかなか捗りませんが、多くの人の参加が必要です。今回は駆除範囲の半分で、残りは3月1日に作業するそうです。

作業の後は、地域で昔から作られている「ばらっぱまんじゅう」と、豚肉以外の食材はすべて環境塾でつくられたという「豚汁」をおいしくいただきました。

参加した高校生の笑顔や中学生自ら参加したなど、うれしくなりました。夏の田んぼへの効果を期待しています！  
(文責：桑波田 和子)



## エスケー石鹸工場見学報告

北拠点メンバー「とんがらし座」の小堀様からエスケー石鹸株式会社（本社東京都北区）の工場（川口市）見学のお誘いをいただき、2025年1月16日（木）に参加者4名で川口駅に集合して、会社営業部の滝沢様、鄭様には工場への案内から見学が始まりました。

ご説明の初めは、廃食油を有効活用したりサイクル石けんは、食堂などから出る廃食油を中間処理、精製処理をして化粧品材料にもなる高純度な脂肪酸に再生する油脂メーカーの存在があって、高品質なエスケー石けんができることでした。大きな工場でないのにも関わらず、洗顔・浴用固形石鹸はじめ、液体石鹸、ハミガキまで多くの種類が作られていることを、会社概要と石けん生地の生産工程などからお聞きしました。

ご説明の後、写真のような白衣、帽子着用で、工場内まるごと石けんづくりの様子を見学させていただくことになりました。大きな洗剤の会社ではなかなか作っていないというケン化法石けん工程の見学では、雪のような粉石けんだらけの工場の

様子（流石にここは無人でした）も見せていただき、貴重な体験でした。

「手作り石けんで環境のこと学ぼう！」のプログラムの活動紹介があり、また、石けんづくりを通して環境のことを考えるきっかけにしてほしいと小学校の授業用に開発された「“コネコネ”マイ石けん」は、簡単に自分の好きな形の石けんが作れるもので、小学校の授業、地域のイベントなどでも環境教材として使われているとのことで、100個単位での販売もされています。購入を希望される方は、問い合わせ先（エスケー石鹸 フリーダイヤル：0120-641-412）<https://www.sksoap.co.jp>まで

エスケー石鹸株式会社様、企画してお繋ぎいただいた小堀様に感謝の見学でした。  
（文責：横山 清美）



## 羽田クロノゲート見学会

千葉市温暖化対策地域協議会の事業として、2025年1月25日にヤマトホールディングスの羽田クロノゲートベース（東京都大田区羽田）を見学してきました。

平たくいうと、クロネコヤマト宅急便の集配中継基地です。ただ、それだけでなく、敷地・建物にさまざまな配慮がされており、宅急便などの荷物の配達も、持続可能な形に近づけようと、日々努力を続けているということがわかりました。

この見学会では写真撮影やメモが禁止だったので、以下、記憶をたどってご報告いたします。

\* 敷地内にはたくさんの草木を植えこみ、埋め立て地でありながら明るい森という雰囲気でした。また、建物は太陽光、雨水をしっかりと利用する設計になっていました（中水用の地下ダムもあるそうです）。敷地内には体育館もあって、庭や体育館は周辺住民にも開放されているそうです。

\* 歴史などの概要説明の後には、荷物の仕分け場の見学です。羽田クロノゲートは鉄道、自動車、航空機のどれにも便利な中継基地になっていて、24時間365日稼働しており、徹底的な無人化・省力化が行われています。ベルトコンベアに乗せられた荷物が、宛先シールを自動的に読み込んで、

複雑に枝分かれしているベルトコンベアを、ひとりでどんどん進んでいくのには、ただただ見とれるばかりでした。

\* 見学が終わった後は最初の説明コーナーに戻り、CO<sub>2</sub>削減のための様々な努力などについて説明いただき、参加者からの質問にも答えていただきました。日本全国のCO<sub>2</sub>の9%を流通部門で排出しているという事実をしっかりと認識して、トラックのEV化や水素自動車の（試験的）導入などを進めていることなどが話されました。保冷用のドライアイスの使用量を減らすことなども検討中だそうです。



\* 羽田クロノゲート見学コースについて、以下のURLもご覧ください。

<https://yamato-hd.co.jp/facilities/haneda-chronogate/>  
（文責：小倉 久子）



## 印旛沼環境基金報告会参加報告

公益財団法人印旛沼環境基金の令和6年度の助成を受けて実施した事業の成果報告会が2025年1月30日に印旛合同庁舎大会議室で行われた。当日は高等学校や大学を含む10団体が参加し、印旛沼と印旛沼流域における環境改善に向けた保全活動や調査・研究、啓発及び環境学習の成果が発表された。

今年度の当会の事業は、小学生の親子を対象とした参加・体験型の環境学習であり、観光船2隻に分乗した船上観察と、湖岸および佐蘭花研修室での魚類観察の2つの体験から構成されている。

コロナ禍以降、バーチャルな体験や学習が盛んに行われるようになってきたが、印旛沼という環境を船に乗って体感し、魚やエビの実物を触ったり、間近で観察したりすることの大切さはより高まっていると感じた。詳しい内容は、だより159号をご参照ください。

今年度の基金の助成対象事業は、調査・研究活動が4団体、保全・保護活動が3団体、イベント・体験活動が3団体であった。印旛沼流域で活動する幅広い活動に対して助成が行われ、それぞれの

団体がそれぞれのスタンスで印旛沼と関わり、印旛沼をよりよくするための活動を展開していることが感じられる発表会であった。

発表団体（助成を受けた団体）の多くは構成メンバーの年齢層が高く、活動の将来に不安を持っているという声が複数で聞かれた。また、活動内容にマンネリ化が感じられた。一方、「段ボールイカダCUP」という若い世代の団体の新しい取り組みの報告・紹介も登場した。今後の広がり期待したい。（文責：谷合 哲行）



## 印旛沼流域交流会参加報告

開催日：令和7年2月15日(土) 14:00~17:00

場所：イオンタワーユウカリが丘 東街区3階

イオンタウンホール

主催：印旛沼流域健全化会議 NPO いんば

印旛沼流域で活動しているNPO、事業者、自治体等42団体が集まりました。コロナ前の「印旛沼流域体験フェア」以来で、同窓会のような雰囲気と新しい活動団体等が知り合う場となりました。会場には、各団体の活動を紹介するパネルなどもあり、休憩時間などを活用してポスターセッションのような場面にもなりました。

いんばぬまピッチトークでは、①何をしている②何ができる③参加できる活動、をもとに3分間スピーチです。会場に展示したパネルを活用、パワーポイント、飛び入り参加の紹介など、3時間があっという間に過ぎました。

参加団体の活動場所は、習志野、八千代、印西、白井、千葉、佐倉、富里などで、活動は里山・里

沼・里海、歩こう会、農業者などそれぞれ多様でした。

ナガエツルノゲイトウ等で活躍のIVUSA、里山活動の東邦大学、中央大学など学生の報告もありました。「私たちは印旛沼を愛し、また印旛沼から愛されました」のコメントは印象に残りました。

千葉市・八千代市・佐倉市の3市から、東京湾と印旛沼をつなぐ「千葉うみさとライン」について紹介。健全化事務局の河川環境課、水質保全課の取り組み。水資源機構からは、大和田機場の役割、4月の桜祭りの案内などでした。また、企業の地域や印旛沼への取り組みの紹介もありました。

印旛沼への取り組みの当初を知るNPO いんばの園原さん・小倉さんから、これまでの取り組みが話され、新しい世代への継承にもなりました。印旛沼への熱い思いを聞きあう交流会でした。この思いを次回に繋げましょう！と誓いました。

（文責：桑波田 和子）

## 四街道メダカの会第17回講演会「クマガイソウの不思議」

NPO 法人四街道メダカの会 理事長 任海正衛

2月2日、「クマガイソウの不思議 ～わかっていること・わからないこと～」の講演会を開きました。四街道メダカの会主催、佐倉花の里プロジェクトの共催で151名参加の催しでした。クマガイソウ研究の第一人者、福島大の山下由美先生、生物多様性との関係で東京情報大学の原慶太郎先生の講演を中心に行われました。

四街道と佐倉には、日本でトップクラスの遺伝子の多様性のあるクマガイソウ群落があります。四街道の群落は35年以上にわたり調査され、佐倉の群落は竹林の手入れの中でこの5年ぐらゐの間に劇的な増殖をしています。成東には天然記念物の群落もあるなど、クマガイソウは千葉に縁の深い山野草です。

一般的な植物は種を播けば芽を出し成長し花を咲かせます。クマガイソウは栄養繁殖は容易なのですが、自然の中での種子繁殖が難しく、人工的な種子繁殖の成功例はありません。最近、やっとクマガイソウと共生するラン菌が特定されるところまで来た段階です。クマガイソウの受粉はマルハナバチの仕事ですが、講演会ではマルハナバチも

生息する環境をふくめ、多様性のある自然環境の大切さが強調されました。

四街道メダカの会は、調査活動、保全活動を行っていますが、多くの市民とともに自然について考えるために毎年講演会を開き、隔月で「めだか新聞」を発行し好評を得ています。

今回は17回目の講演会ですが、毎回、100名前後の参加、これまでに延べ2000名以上の方とともに自然について学習しました。環境保全には、多くの人の関心と協力が不可欠です。今後ともこれらの活動を続けていければと考えています。なお、4月中旬にクマガイソウの観察会を開催します。参加については四街道メダカの会のHP等をご覧ください



山下由美先生(福島大学)の講演

## 習志野環境フォーラム2025開催報告

特定非営利活動法人さざなみ(習志野の海を守る会) 島田 拓

私たちは習志野市の護岸の清掃活動を続けております市民グループです。このたび昨年へ続き新習志野にて2回目となる環境フォーラムを開催させていただきました。

3月15日に行われた本会合では東京湾保全の最新の取り組みや、地球環境と人間への影響をとらえる「プラネタリーヘルス」に関連した話題提供を4名の登壇者からいただきました。

堀田健治氏による東京湾奥における昆布の育成は日本初の試みであり、今後我々の身近な海域での応用が期待されます。中村倫明氏によるマイクロプラスチックに関する新しい知見は、日々東京湾岸での水辺の清掃活動に取り組む私たちにとって活動のヒントを示唆しておりました。長年三番瀬の海辺で野鳥の観察を行う田久保晴孝氏による干潟の生命に関する考察は、身近な海辺を愛する人々の心を打ちました。梶有貴氏からは医師として環境変化と人間の健康とのつながりに関する講演をいただき、環境保全が単に美しさや動植物の保全のみならず、私たち人類の存続にかけがえの

ないものであることをお伝えいただきました。話題提供の後には約30名の参加者が集いディスカッションを開催、様々な質問や意見が飛び交い、皆様の関心の高さが伺えました。

2020年春から習志野市の海辺でごみ拾いを始めた我々ですが、多くの仲間へ支えられ、ここまで活動を継続することができました。「とりもどせ僕たちの海プロジェクト」と称し10年計画で始動した本活動は後半に突入し、今後の活動のヒントを得られる会合となりました。引き続き身近な海辺や里山の環境を保全する意味を追求しつつ、努力してまいります。





県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 76 —

おききました！ この人・この団体



## コドモライブプロジェクト 市民発やちよ未来エネルギーの取り組み

一般社団法人やちよ未来エネルギー 小林 光子

一般社団法人やちよ未来エネルギーは、2011年の東日本大震災をきっかけに、子どもたちの未来のため、未来の不安が安心に変わる持続可能な社会の実現を目指して設立しました。社員は14名で、皆、地球温暖化防止活動推進委員です。

弊社は地域の市民の皆様と協力しながら、自然エネルギーの推進や脱炭素社会の実現に向け「コドモライブプロジェクト」として5つの主要なプロジェクトに取り組んでいます。

### 1. 市民発電所プロジェクト

太陽光発電エネルギーを利用した市民発電所1号機は、2019年に市内にある高津幼稚園の屋上を活用して、地域の皆様と一緒に作成し完成させました。災害時の非常用電源としての機能も備え



市民活動機第1号の完成

ているほか、売電収益の一部を地域の子どもや福祉活動に寄付する仕組みを導入しています。

こちらの発電所は教育旅行SDGs体験プログラムとして現地視察を受け入れ中です。第3号機以降のプロジェクトも進行中です。

### 2. エコ教育プロジェクト

夏休みの科学工作や論文講座を開催し、地球温暖化防止や私たちができるエコライフ、SDGsに関する教育を推進しています。ソーラー発電工作やソーラー発電論文講座などを通じて、子どもたちと保護者が楽しみながら学べる場を提供しています。5年前から毎年10講座以上の講座を開催し、500名以上の参加者が持続可能な社会への取り組みやSDGsの重要性を学んでいます。先日は市内企業の株式会社オカムラホーム様と共同で断熱DIYワークショップを開催し、市内外から多くの方にご参加いただきました。

### 3. ベランダ発電

家庭での脱炭素化や災害対策として、ポータブルソーラーパネルと蓄電池の、一家に一台の普及を推進しています。ご家庭での利用や災害時の利用の推進と、各種イベントの電源を自然エネルギーで賄う、市民参加型のエコイベントの取り組みも行っています。

### 4. エコ電源イベントプロジェクト

ポータブルソーラーパネルと蓄電池、電気自動車などを活用して、様々なイベントの使用電源を100%自然エネルギーのエコ電源にする取り組みです。八千代新川千本桜祭のライトアップやクリスマスイルミネーションなどを市内外で実施。より多くの方にご参加いただけるよう、子どもたちが作ったペットボトルソーラーランタンも利用させていただき、市民参加型の取り組みになっています。今年は4月5日～13日に新川のソメイヨシノのライトアップを行います。

### 5. 子どもを守るプロジェクト

2015年から5年間、子どもたちの甲状腺検診を開催しました。2022年、やちよ未来ファームを設立し、耕作放棄地を活用した、地球にも人にも優しい自然農法での野菜づくりを実践中です。イベントを定期開催中で、市民の方に地産地消の食と自然エネルギーの普及を推進しています。こちらの農地ではソーラーシェアリング市民発電所を計画中です。

地球沸騰化といわれるようになりましたが、私どもはこれらの活動を通じて、市民の輪から自然エネルギー社会への転換を進め、地域の皆様と共に 一步一步取り組んでまいります。



## 運営会議報告

### 2月度運営会議

2月13日(木) 20:00~21:45  
会場：オンライン (Zoom)

#### 【報告】

- ・R6年度若者が主役の環境活動応援事業 (委託事業) 進捗状況
- ・SDGs学生フォーラム打ち合せ
- ・いちほら環境フェスタ実行委員会 1/30  
会場：アリオ市原 屋内展示：6/2 屋外展示：6/7
- ・印旛沼環境基金報告会 1/30 他

#### 【協議】

- ・だより162号 進捗
- ・理事会の協議を受けて中間支援団体としての具体的な活動 SDGs/ESDフォーラム 3/22
- ・R6年度若者が主役の環境活動応援事業 報告会 3/8
- ・SDGs学生フォーラム 3/9
- ・2025年の活動予定検討

### 3月度運営会議

3月13日(木) 20:00~21:30  
会場：オンライン (Zoom)

#### 【報告】

- ・R6年度若者が主役の環境活動応援事業 (委託事業) 進捗状況 3/8 報告会
- ・SDGs学生フォーラム打ち合せ
- ・いちほら環境フェスタ実行委員会 2/28
- ・印旛沼交流会 2/15
- ・第3回理事会開催 3/4 他

#### 【協議】

- ・だより162号 進捗
- ・理事会の協議を受けて中間支援団体としての具体的な活動 SDGs・ESD交流会 3/22
- ・総会 5/25
- ・第4回理事会 3/17
- ・大和田排水機場桜まつり出展 4/5
- ・その他 (いちほら環境フェスタ出展、拠点での集まり会の開催)

## お知らせ

### 【第8回通常総会のご案内】

NPO 環パちば第8回 (令和7年度) 通常総会を以下の日程で開催します。正会員のみなさまには、4月末に詳細をご案内させていただきます。

開催日時：令和7年5月25日(日)  
13時30分~15時

開催場所：千葉市生涯学習センター 研修室3  
(千葉市中央区弁天 3-7-7)

### 【第27回浦安市民まつり

#### 同日開催 境川みんなのかわまちの春

日時：令和7年4月26日~27日 10時~16時  
場所：境川周辺  
詳細：浦安市役所 HP をご覧ください

### 【第10回いちほら環境フェスタ開催】

市民一人ひとりが環境保全及び3Rの推進等、環境に対する理解と関心を深め、環境にやさしい行動を率先して実行するきっかけを提供することを目的として開催します

開催日時：(屋内展示) 令和7年6月2日(月)~6月7日(土) (午前10時~午後9時まで) 最終日は午後3時まで  
(屋外出展) 令和7年6月7日(土) 午前10時~午後3時

開催場所：(屋内展示) アリオ市原1階サンシャインコート (エスカレーター間)  
(屋外出展)：アリオ市原1階サンシャインコート (屋外) 及びサンシャインアベニュー

主催：いちほら環境フェスタ実行委員会・市原市

## 「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

### お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば  
Tel：090-8116-4633 E-mail：info@kanpachiba.com  
ホームページ：https://kanpachiba.com/  
※会費や会員申し込みなどの情報は上記HPでご確認ください。